

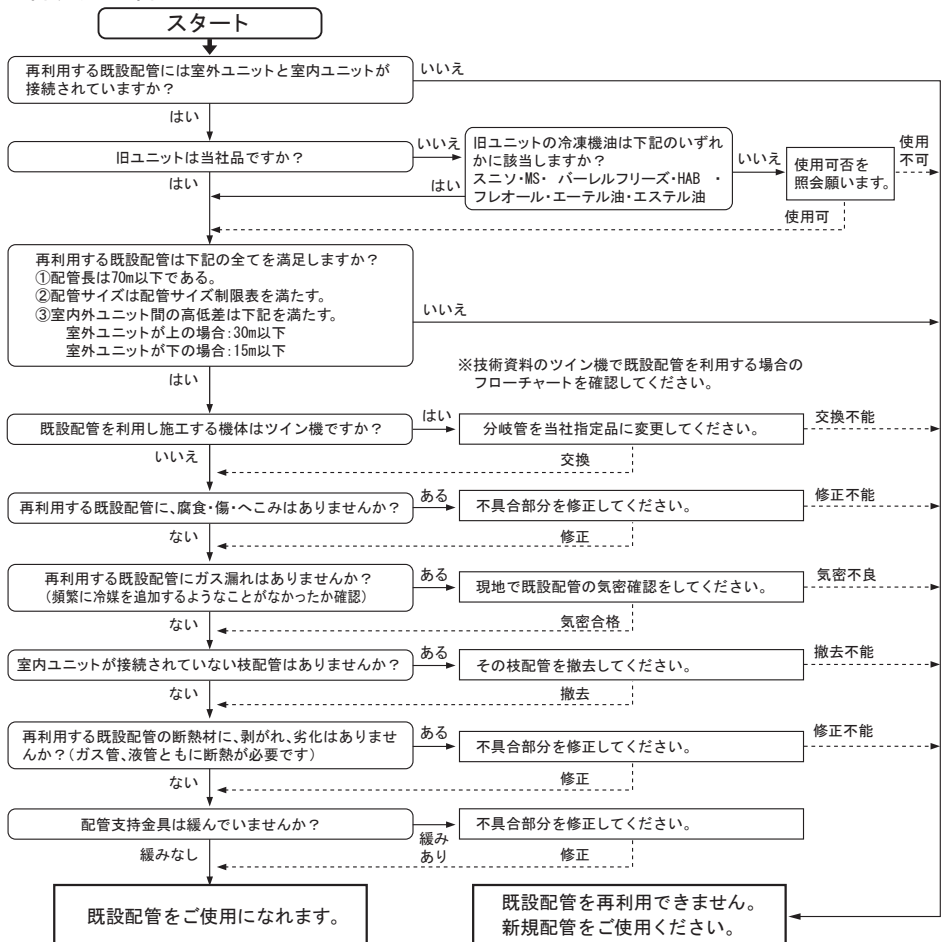
既設配管洗浄手順

1. ご使用の前に確認いただきたい事項

(1) 既設配管流用時の条件

注意ポイント	配管	この手順書での記載項
クリーン (CLEAN) ・配管内にゴミがないこと	(a) 既設配管は既設機ユニットに接続された状態であること。 外れた状態では、既設配管内に雨水、空気が浸入し配管内が錆びている可能性があります。 (b) フロン排出抑制法に従い。確実に冷媒回収を行うこと 冷媒をみだり大気中に放出すると、罰則が適用される場合があります。 (c) 内蔵の洗浄回路により、指定の時間洗浄運転ください。	⇒1 (2) 既設配管流用可否判断 フローチャート ⇒2 既設配管流用時の現地施工 手順 ⇒3 洗浄運転
ドライ (DRY) ・配管内に水分がないこと	(d) 確実な真空引きの実施 -101kPa (-755mmHg) 以下になってから 1 時間以上真空ポンプの運転を実施。	⇒2 既設配管流用時の現地施工 手順
タイト (TIGHT) ・冷媒もれがないこと	(e) 既設配管に腐食・傷・へこみがないこと。更に断熱材の剥れ・劣化がないこと。 (f) R32 用のフレアナットの使用かつフレア加工の実施。 (g) 気密試験 (規定圧力 :4. 15MPa) を確実にすること。	⇒同封の据付説明書の 2 冷媒 配管工事 を参考ください ⇒2 既設配管流用時の現地施工 手順

(2) 既設配管流用可否判断フローチャート



〈配管サイズ制限表〉

◎:標準配管サイズ ○:使用可能 △:配管長制限短縮 冷↓:冷房能力低下 ×:使用不可

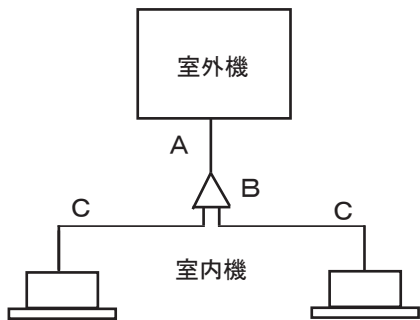
●表に記載のない配管サイズの組み合わせは使用できません。

配管1m当たりの追加チャージ量		0. 02 kg/m	0. 054 kg/m	0. 11 kg/m		
配管サイズ	液管	φ6. 35	φ9. 52	φ9. 52	φ12. 7	φ12. 7
	ガス管	φ15. 88	φ15. 88	φ19. 05	φ15. 88	φ19. 05
KP80, 112	適用範囲	△	◎	○※1	△	△※1
	最大片道配管長	20	100	100	50	50
	チャージレス長	10	30	30	15	15

※1: φ19. 05 × t1. 0は耐圧強度が不足のため、室外ユニット基板上のディップSW5-1をONにしてください。
(ツイン機の場合、第1分岐以降の配管にφ19. 05 × t1. 0が存在する場合を含む)
ただし、1/2H材または肉厚1. 2以上の配管を使用の場合は必要ありません。

(3) 分岐間使用時の留意点

ツイン機にて既設配管を使用する場合は、下記の該当項目を確認してください。



室外機容量 (馬力)		KP80, 112
	A部 主管	(2) 項既存配管使用可能範囲を参照
	B部 分岐管	当社製ユニット分岐管の場合一部使用可。 (3) 項参照
	C部 分岐後配管	配管サイズにより、一部使用可。

■ツイン機で既設配管を使用する場合、下記フローチャートで主管・分岐管・分岐後配管の流用可否を確認してください。

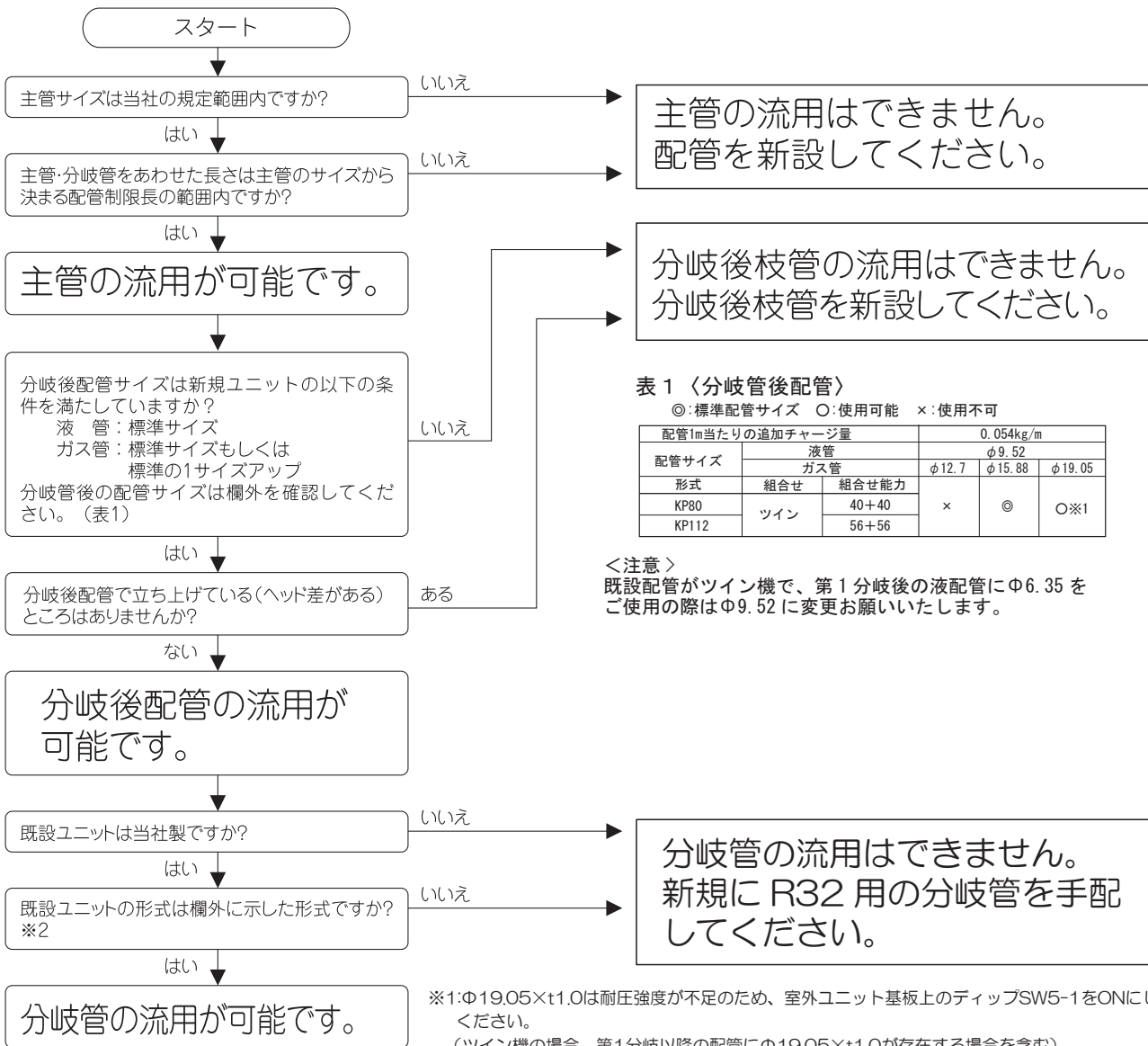


表 1 〈分岐管後配管〉

◎:標準配管サイズ ○:使用可能 ×:使用不可

配管1m当たりの追加チャージ量		0. 054kg/m			
配管サイズ	液管	φ9. 52			
	ガス管	φ12. 7	φ15. 88	φ19. 05	
形式	組合せ	組合せ能力		×	◎
KP80	ツイン	40+40	56+56		
KP112		40+40	56+56	×	◎※1

〈注意〉

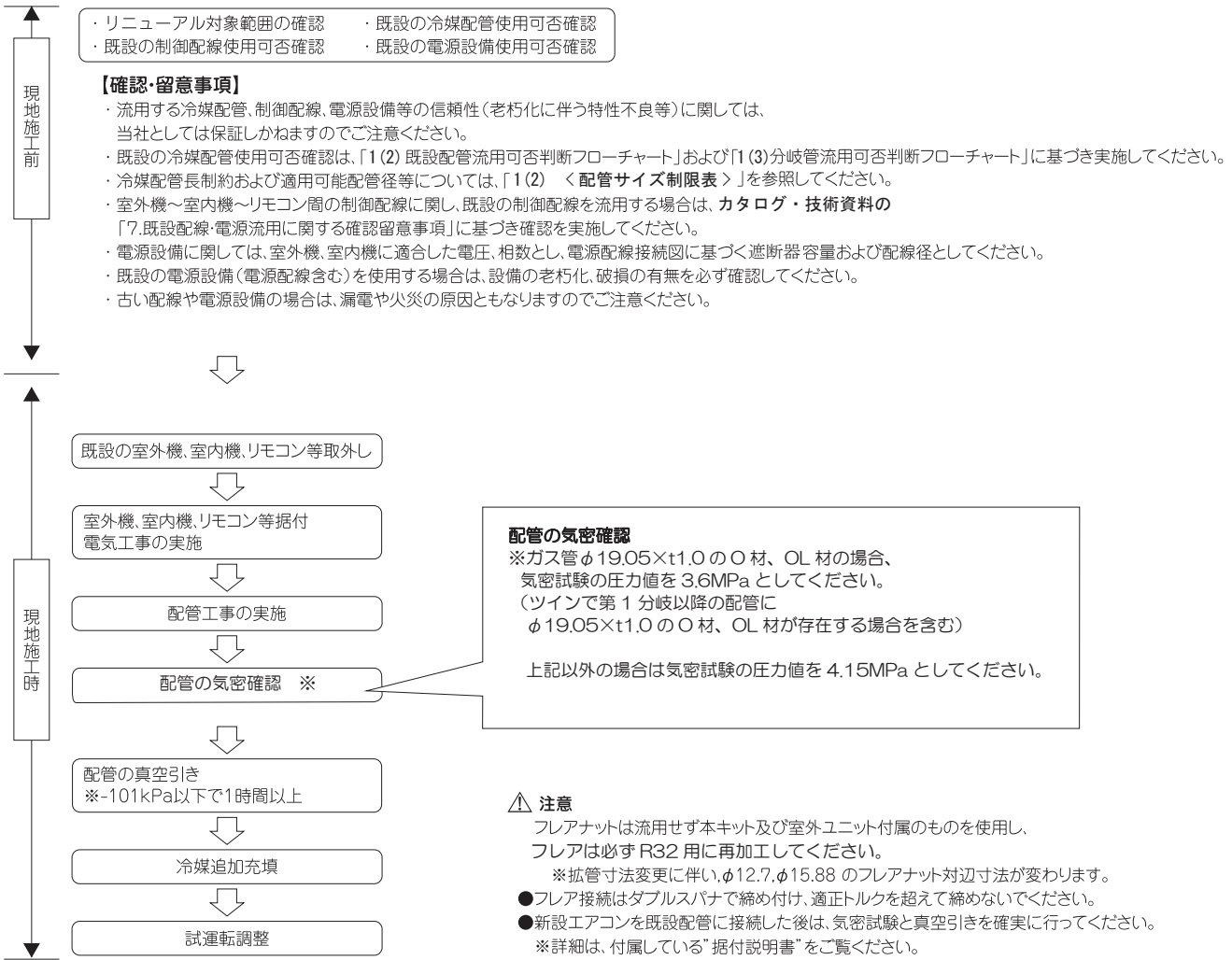
既設配管がツイン機で、第1分岐後の液配管にφ6. 35 を
ご使用の際はφ9. 52 に変更お願いいたします。

※2:〈分岐管流用可能な既存ユニット機種〉

112～160:FDCJ～H,FDCJ～HA,FDCJ～HD,FDCJ～HD1,FDCJ～HD2,FDCJ～HD3(A),FDCP～HD3以降のFDCの後に“ P”がつく形式

※～には能力を示す数字が入ります。※既存ユニットがFDC～ではじまる形式の場合 (FDCの後に“ J” または“ P” がつかない形式。例: FDC125H8A) ,
分岐管は流用できません。R32用の分岐管を使用してください。(分岐管にオリフィスが無いため室内機間の分配不良となります。また耐圧不足となります。)

2. 既設配管流用時の現地施工手順



3. 洗浄運転

(1) 洗浄運転前の確認事項

○同封の据付説明書を参考に、以下の内容を確認ください。

据説の項目	項目	確 認 項 目	チェック
2	冷媒配管工事	ろう付けした場合は、配管に窒素ガスを流してろう付けしましたか。	
		気密試験、真空引きは確実に行いましたか。	
		配管の断熱材は液管とガス管の両方に取付られていますか。	
		冷媒追加充填量、冷媒配管長さをパネルのラベルに記入しましたか。	
4	電気配線	配線の接続忘れ、欠相、逆相はないですか。	
		冷媒追加充填量、冷媒配管長さをパネルのラベルに記入しましたか。	
		遮断器、配線などの電気機器は適正容量の機器を使用していますか。	
		複数設置の場合は、ユニット間の配線がいかかわっていませんか。	
		リモコン線に室内外通信線を接続していませんか。	
		内外接続線は同一端子番号で接続していますか。	
		内外接続線はVCTキャブタイヤケーブルまたはVVF平形ケーブルですか。	
		アース工事はD種接地（第3種接地）工事が行われていますか。	
		配線の取付け部のネジが緩んでいませんか。	
		配線は配線クランプで固定し、端子接続部に外力が加わらないようになっていますか。	
ー	室内ユニット	室内ユニットの据付作業は完了していますか。	
		室内ユニットに化粧パネルを取り付ける場合には、化粧パネルの取付が完了していますか。	

(2) 洗浄運転手順

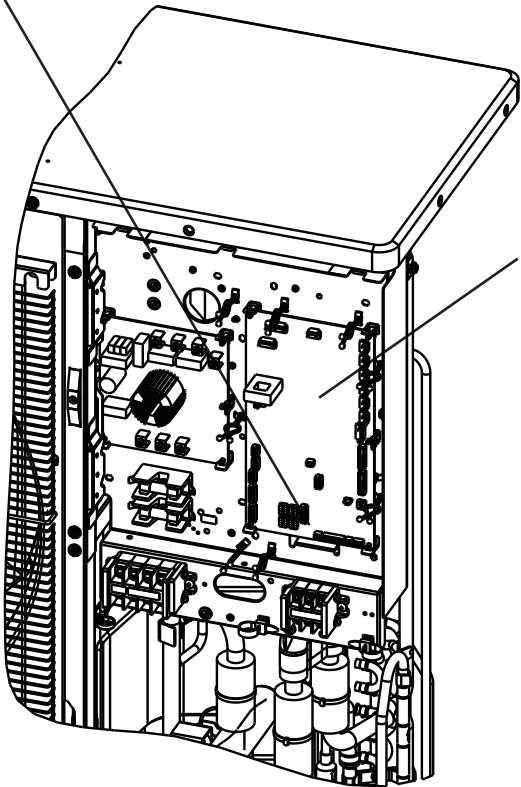
○下記の順番に従ってチェックしながら行ってください。

順番	操 作 内 容	チェック
①	冷媒配管工事、電気配線、室内工事が正しく完了しているか（1）の表にそって確認してください。	
②	ガス側操作弁を全開にしてください。	
③	液側操作弁を全開にしてください。	
④	既設配管にΦ19.05×t1.0 をご使用の場合、SW5-1 を ON してください。	
⑤	SW5-2 を OFF⇒ON で既設配管洗浄を開始します。	
⑥	⑤のディップ SW ON で 緑 LED が高速点滅します。（0.5 秒 ON/0.5 秒 OFF） リモコン（RC-E4 等）のディスプレイ上には「冷房試運転」が表示されます。 （洗浄運転は冷房運転で行います。リモコンディスプレイ上は「冷房試運転」と表示します。）	
⑦	赤 LED が点滅していないことを確認してください。	
⑧	室内機から冷風が吹いていることを確認ください。（洗浄運転は冷房運転で行います。）	
⑨	洗浄運転は 2 時間必要です。⑤ディップ SW ON 後、圧縮機の積算運転時間 2 時間で自動終了（緑 LED が通常点滅（1 秒 ON/1 秒 OFF）になります。手動にて終了する場合、ディップ SW を ON⇒OFF にしてください。再始動は OFF⇒ON で可能です。）	

○洗浄運転自動終了後、ディップ SW5-2 は ON 位置のままでも通常のエアコン制御になります。
停電後の復電時、ON 位置のままでも、エアコン制御を行います。
（洗浄運転開始は SW 位置の OFF ⇒ON 一連の動作から開始します。）
○複数台数の室外機を同一リモコンに接続する場合については、洗浄運転の実施後に、各室外機毎のリモコン配線を接続してください。
○室内吸込み温度が 15℃以下の場合、洗浄運転が断続運転になる場合がありますが、故障ではありません。
この圧縮機が停止している時間は洗浄運転の累積時間に含まれません。

既設配管の中にΦ19.05×t1.0 がある場合、SW5-1 を ON にしてください。
（既設配管の耐圧に応じた圧力制御にするためです。）

SW5-2 を OFF⇒ON 3 分後に既設配管洗浄運転が開始します。



緑 LED, 赤 LED
基板上にあります。

KP80, 112 の SW と LED の位置